

「男性型脱毛症」



庄原赤十字病院
皮膚科医師

大原 直樹

① 男性型脱毛症とは？

男性型脱毛症は男性ホルモンの影響で生じる脱毛です。思春期以降に額の生え際や頭頂部の髪が、どちらか一方、または双方から薄くなり進行します。

② 原因は？

髪の毛一本一本には寿命があり、伸びては抜け、また新しく生えることを繰り返しています。これをヘアサイクルと呼んでいます。毛包は、成長期、退行期、休止期のいずれかの状態にあり、このうち成長期が一番長く通常2〜6年間続きます。しかし、男性型脱毛症では成長期が短くなるため、髪の毛が十分に成長しません。原因としてジヒドロテストステロン（DHT）の関与が考えられています。男性型脱毛症では、脱毛部分の頭皮に多量のDHTが確認されています。DHTは5α還元酵素によってテストステロンから作られ、このDHTが毛乳頭細胞

③ 治療は？

存在する男性ホルモン受容体と結合すると、脱毛シグナルが出され、成長期が終了してしまいます。そのため毛髪が長く太い毛に成長する前に抜けてしまいます。十分に育たない細く短い毛髪が多くなることで、全体として薄毛が目立つようになります。

男性型脱毛症の治療は、これまで外用剤（塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど）が主体でしたが、近年、ホルモンの働きを抑制し、抜け毛を防止する「のむタイプ」の治療薬が登場しました。フィナステリド錠（商品名：プロペシア）は5α還元酵素を阻害し、DHTの産生を抑える薬剤です。それにより、脱毛を抑え、現状維持と発毛が期待できます。若い時期から飲むのが効果的で1日1錠を半永久的に内服します。止めると元に戻ります。3年間継続して内服することで98%に抜け毛の進行抑制・改善効果が認められています。本錠は、男性成人のみ服用できます。妊婦が本錠を服用すると、男子胎児の生殖器官などの正常発育に影響を及ぼすおそれがあります。また、健康保険の給付対象にはならないので、医療費は全額自己負担となります。

「予防接種」を受けましょう

子どもの定期予防接種 — 公費負担事業 —

保健医療課医療予防係 0824-73-1155

感染症にかかるると体力的にしんどいだけでなく、合併症や後遺症などで重症にもなります。場合によっては命を落とす危険性もあり、市は予防接種の大切さを踏まえ、子どもの定期予防接種を公費負担で実施しています。予防接種を受けるには、予防接種券と予防表が必要です。保健医療課または各支所へお問い合わせください。



定期予防接種

方法	種類	接種期間	標準的な接種期間	接種間隔および接種回数	
集団	ポリオ	生後3カ月以上 90カ月未満	3カ月以上 18カ月未満	6週間以上の 間隔で2回	
広域	BCG	生後6カ月未満	3カ月以上 6カ月未満	1回	
	三種混合	初回	生後3カ月以上 90カ月未満	3カ月以上 12カ月未満	3〜8週間の 間隔で3回
		追加	初回終了後6カ月 から生後90カ月に 達するまで	初回終了後、 12カ月から 18カ月の間	1回
	麻しん 風混合	第1期	生後12カ月以上24カ月未満		1回
		第2期	5歳以上7歳未満で、 小学校入学前の1年間		1回
第3期		平成8年4月2日〜 平成9年4月1日生まれ		1回	
第4期		平成3年4月2日〜 平成4年4月1日生まれ		1回	
	二種混合	11歳以上 13歳未満	小学校6年生	1回	

※日本脳炎は、現在中止しています。
 ※□は、本年度の対象年齢です。第3期のお子さまは、中学校を通じてご連絡します。
 ※集団接種（ポリオ）は、地域で実施。広域は、県内の予防接種業務委託実施医療機関で実施。
 ※予防接種は体調の良い時に受けるのが原則です。